

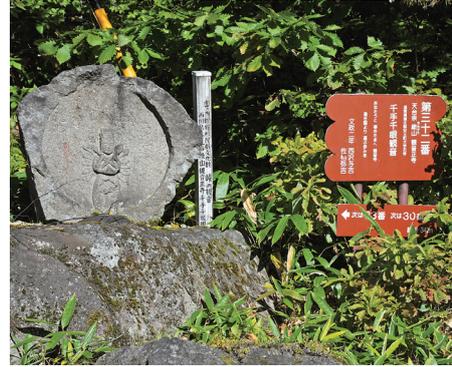
14

温泉と観光

草津道は湯田中・佐野・沓野から渋峠(標高2172m)を越え、芳ヶ平を抜けて草津に至る道です。江戸時代には善光寺と草津温泉をむすぶ道として、米や野菜・海産物などを載せた牛馬や善光寺参りの人々が行きかいました。荒井河原(現地獄谷)の大噴泉は当時から有名で、町内の温泉には当時から多くの人々が訪れていました。



荒井河原(現地獄谷)の大噴泉
(江戸時代末期「信濃奇勝録」)



渋峠の三十三観音 旅の安全を祈願

神津藤平は1920年(大正9年)に河東電鉄(現長野電鉄)を設立し、湯田中まで鉄道を敷きました。遊園地、温泉プール、テニスコートなどを設け観光開発に取り組みました。さらに草津道を改修しバス路線を延長しスキー場などを整備し、首都圏の人々を自然あふれる山ノ内町に誘いました。



志賀高原開発の恩人
神津藤平
(志賀高原歴史記念館)

江戸時代から草津道は往来がさかんだっただね。今では高原の観光道路として人気があるよね。



志賀高原ホテル(現志賀高原歴史記念館)

1930年(昭和5年)、海外から外国人を招くために国の政策でホテルが建設されました。志賀高原ホテル(現志賀高原歴史記念館)はその一つです。建物内部はステンドグラスと日本画など西洋文化と日本文化の融合が図られています。

日本国道最高地点(渋峠)

1965年(昭和40年)、志賀草津高原ルート(現国道292号)が開通しました。国道の中では一番標高の高い地点(2172m)を通ります。



日本国道最高地点(渋峠)